

## 循環器疾患に潜む 心アミロイドーシス

—骨シンチ製剤を活用した  
核医学診断の最前線—



日時

2021年10月6日(水) 19:00~20:00

場所

詳しくは弊社MRにお尋ねください

ご自宅・勤務先等で、お手持ちのパソコン、iPad、スマートフォンからご視聴いただけます

## 心アミロイドーシスにおける核医学診断の有用性： 基礎とピットフォール

演者

長崎大学 原爆後障害医療研究所 アイソトープ診断治療学研究分野 教授

**工藤 崇** 先生

講演の後にQ&Aの時間を設けております。

Pfizer for Professionals

<https://pfizerpro.jp/>



モバイル対応

この配信は、iPhone、iPadからの視聴もご利用いただけます。



タイムシフト機能をご利用頂けます。

タイムシフト機能とは、開始時刻以降にアクセスした場合でも最初からシンポジウムの動画を視聴いただけるサービスです。シンポジウム終了15分前までに視聴を開始いただいた場合にのみご利用いただけます。

# 循環器疾患に潜む心アミロイドーシス —骨シンチ製剤を活用した核医学診断の最前線—

## 心アミロイドーシスにおける核医学診断の有用性： 基礎とピットフォール

長崎大学 原爆後障害医療研究所 アイソトープ診断治療学研究分野 教授 **工藤 崇** 先生

心アミロイドーシス、特にATTR心アミロイドーシスは、従来想定されていたよりも頻度は高く、日常臨床において比較的遭遇することの多い疾患であること\*、治療薬の開発が進んだことに加え、精度の高い診断法が確立しつつあることによって、循環器診療における近年最大のトピックの1つとなりつつある。特に核医学では古くから存在する骨シンチ製剤の利用で比較的簡便かつ精度高い診断が可能であり、診療拡大の要因の1つとなっている。従来、確定診断には病理学的判断が必須であったが、欧米では核医学検査による陽性所見を持って、病理診断を置き換える方向性もすでに提示されつつある。

一方、CT/MRI等に比べて実施可能な施設が限られていることもあり、すべての疑わしい患者に核医学検査を行うことが出来ないのも事実であり、核医学診断に持ち込む必要のある患者を正しく選択することが必要である。また、核医学による心アミロイドーシス診断のためのプロトコルがまだ確立していないため、撮像法・評価法の標準化が進んでおらず、一部混乱が生じていることも否定できない。また、重症度評価、予後予測の領域でも多くの研究が行われており、核医学の今後の方向性として期待されている。核医学による心アミロイドーシス評価の有用性に加え、そのピットフォール、今後の展望を総括する。

\* 2020年版 心アミロイドーシス診療ガイドライン p7より

### • 演者ご紹介 •

くどう たかし  
**工藤 崇** 先生

長崎大学 原爆後障害医療研究所 アイソトープ診断治療学研究分野 教授



1990年 3月 京都大学医学部 卒業  
 1990年 6月 京都大学医学部附属病院 放射線科・核医学科 入局(医員)  
 1991年 4月 国立京都病院 放射線科 入局  
 1994年 4月 京都大学大学院 医学研究科 核医学・画像診断学  
 1998年 3月 京都大学大学院 医学研究科 核医学・画像診断学 卒業(学位取得)  
 1998年 4月 京都大学医学部 核医学・画像診断学教室 入局  
 1998年 9月 UCLA, School of Medicine, Dept. of Molecular and Medical pharmacology 留学  
 1999年12月 近畿大学医学部 放射線医学教室 入局(病院講師)  
 2003年 4月 滋賀県立成人病センター研究所 入所(専門研究員)  
 2007年 4月 福井大学 高エネルギー医学研究センター 准教授  
 2010年 1月 長崎大学 原爆後障害医療研究施設 放射線応答解析研究分野 教授  
 2013年 4月 所属の名称変更(長崎大学 原爆後障害医療研究所 原爆・ヒパクシャ医療部門 アイソトープ診断治療学研究分野) 現在に至る